



「A Hand Up, Not A Hand Out」

——国際障がい者デーで学んだ“誰一人取り残さない”視点

みなさんこんにちは！国際赤十字・赤新月社連盟（以下、IFRC）パプアニューギニア国事務所に派遣されている木本です。

ここ最近、各地で災害が続く中で、「もしものとき、誰が取り残されやすいのか」ということを考える場面が増えました。

今回ご紹介する12月3日の「国際障がい者デー」のイベントは、災害そのものがテーマではありませんが、そのことをあらためて意識した日でした。

当日の様子と、こちらで行われた取り組みをお伝えします。

REPORT

国際障がい者デーのイベントに参加して



12月3日、国際障がい者デーに合わせて、首都ポートモレスビーで「誰も取り残さない社会」を呼びかけるイベントが開催されました。

テーマは、

“A Hand Up, Not A Hand Out

– Empowering people with disabilities to reach their full potential”。

「何かを“与える”対象としてではなく、その人が持つ力を引き出し、ともに社会をつくるパートナーとして捉える」というメッセージが込められています。



会場では、パネルディスカッションやムービー上映に加え、障がいのある人たちが構成されたバンドによる演奏もあり、「支えられる側」ではなく「社会を一緒に作る当事者」としての姿が、音楽とともに力強く伝わってきました。

パプアニューギニア赤十字社からは職員4名、IFRCからは五十嵐所長と私が参加しました。

赤十字特別支援学校

パプアニューギニア赤十字社のブースでは、日頃の活動を紹介するポスターや写真とともに、ポートモレスビーにある Red Cross Special Education Resource Centre（以下、赤十字特別支援学校）の紹介を行いました。

ここは、聴覚や発話の障がいなど、さまざまな特性を持つ子どもたちが通う場です。

先生たちは、一人ひとりのペースに合わせて、読み書きやコミュニケーション、日常生活に必要なスキルを丁寧にサポートしています。



PGIの視点



尊厳



参加



アクセス



安全

PGIの取り組みを導く原則

©IFRC

また今回新しく作成されたカードには、IFRCが大切にしている Protection, Gender and Inclusion (以下、PGI) の視点も盛り込まれました。

PGIは、年齢・性別・障がいの有無にかかわらず、すべての人が尊厳を守られ、安全に支援へアクセスし、意思決定に参加できるようにするためのアプローチです。赤十字特別支援学校の取り組みは、まさにPGIを教育現場で形にしている一例だと感じています

PGIは、特別な配慮ではなく、支援の前提だと感じています。

まず当事者の声を聞くこと。

安全に参加できる環境を整えること。

情報が届く形に整えること。

この積み重ねが、支援へのアクセスや参加につながります。

今回のカード作成でも、活動紹介だけでなく、必要な人が次の一歩につながる導線を意識する大切さを学びました。

ブースでの対話から見たこと

ブースに立ち寄ってくれた方には、赤十字特別支援学校やPGIの考え方について、一人ひとり説明しました。

「こんな学校があるなんて知らなかった」

「自分のコミュニティでも『誰も取り残さない』という視点で考えてみたい」

という声もあり、まずは知ってもらうことの大切さを感じました。

説明を続ける中で、話題は「支援を受ける」だけでなく、

「学ぶ」「働く」「地域で役割を持つ」といった内容にも広がりました。

また、相談先や具体的な関わり方を聞かれる場面もあり、情報を伝えるだけでなく、次にどう動けるか（どこにつながるか）まで示す必要があると思いました。

こうした対話は、災害時に「情報が届きにくい人は誰か」

「避難が難しくなる人は誰か」を考えるきっかけにもなります。

同時に、平時の学校や地域での小さな配慮につながる入口にもなると感じています。



災害時も日常も、 「誰一人取り残さない」ために

パプアニューギニアでは、気候変動や社会状況の変化によって、暮らしが不安定になりやすい人たちが少なくありません。

災害時に避難が遅れやすい人や不可能な人、
情報にアクセスしにくい人、
声が届きにくい人は誰かということ、
平時の教育やコミュニティの場で考え続けることが大切だと感じています。

パプアニューギニア赤十字社とIFRCの取り組みに関わらせて
もらう一人として、PGIの視点を大事にしながら、
「災害時も日常も、誰一人取り残されないこと」
に少しでも近づけるよう、今ここで一緒に働いている人たちと、
一つずつ目の前のことに取り組んでいきたいです。



赤十字特別支援学校の先生たちと



パプアニューギニア赤十字社
元事務総長と